

1. 研究目的

当研究部会は、「水中・浮体橋梁研究部会」として発足している。当初は浮体橋梁について部会活動を開始し、平成11年7月には浮体橋梁としての成果を報告書にまとめることができ、さらに引き続き水中橋梁の実現に向けて研究を行った。

本研究においては、ポンツーン等の浮体により桁等を支持する構造を浮体橋梁 (Floating Bridge) と定義し、チューブ状の構造で水中に浮遊しているものを水中橋梁 (Submerged Floating Bridge) と定義している。

今回は、水中橋梁におけるCase Studyとして、テンションレグ方式とポンツーン方式の2つに分類し、海峡横断橋梁について、研究を進めた。

研究目的の主眼は、水中橋梁としたときの断面や係留方法等の構造上の課題、荷重や解析方法等の設計上の課題、施工・維持管理方法、安全性の確保等の諸問題について研究することである。すなわち、陸上での橋梁設計と比較して、設計上問題となる点の検討と対策について研究を進めた。